

JOPA&JATA 共催「クルーズ販売セミナー2008」

講演：寄港地情報を活かして販売上手になろう！（国内編）

—お客さまは自分に合った寄港地の楽しみ方を求めている—

平成20年3月12日（水）

神戸港（中突堤旅客ターミナル）「飛鳥Ⅱ」

講師：郵船クルーズ株式会社 理事・運航部長 田中 三郎

皆さま、お早うございます。郵船クルーズの田中です。

「今日はようこそ「飛鳥Ⅱ」にご乗船下さいました。」といたいのですが、船は出港せずに、暫くここで寄港地の話を聞いて頂くということになります。本来、この部屋は夜になって色々なミュージックや踊りをご覧頂いております、お客さまがお酒を飲みながら、ゆっくり寛いでいらっしゃる場所ですから、昼間にこのようにお話をするというのは何となく違和感がありますが、これから約1時間、私の話を聞いて下さい。

私がクルーズに係わったのが、平成になる前の昭和の時代ですので、かれこれ20年位経ちました。元々は商船学校を卒業して、日本郵船の航海士として貨物船に乗っていたのですが、日本郵船が客船事業を展開することになり参画しました。今、振り返ってみますと20年も経っていて、船にも乗らずにずっと陸上勤務をしているという変則的な生き方をした船乗りということになりますが、そんな中でクルーズ客船を通じて色々な港を巡りながらそれぞれの港の方々と一緒にクルーズをつくって来たという歴史があります。今までは、船会社が主導しながらクルーズを作り上げてきましたが、これからはどちらかというと実際にクルーズ商品を販売されている旅行業界の皆さま方がクルーズを築き上げて下さるのではないかと考えております。

今日は、皆さまにとって何かの参考になればということでお話をさせていただきますので、宜しくお願い致します。

では、先ず、今日の参考資料をいくつかお渡ししていますので、説明させていただきます。はじめに、レジュメを1枚めくって頂きますと日本外航客船協会（JOPA）が調査した「最近10カ年における日本籍クルーズ客船の本邦内港湾への寄港回数」という資料が2枚あります。そして、資料第2号ということで「飛鳥Ⅱ」のこの2年間の寄港実績が添付されています。「飛鳥Ⅱ」は2006年の2月に就航しましたので、それ以降、どのような港に立ち寄ったのかを纏めたものです。そして資料第3号としまして、先程までクルーズを続けていました「飛鳥Ⅱ」が宮崎日向の細島港に一昨日に寄港した際にどういう歓迎を受けたのかということで、地元受入側が作成した資料を添付しました。話は抽象的になるより、なるべく具体的な数字を示しながら皆さまにお伝え出来ればと思っております。他には各船会社のパンフレットや「クルーズだから体験できる—こころとからだを癒す旅」というタイトルで日本外航客船協会が発行した現在の日本のクルーズ客船を網羅した総合パンフレットを用意させて頂きました。

また、クルーズにおいては、国内と海外の寄港地とでは随分特色が違うので、これを一緒にお話すると頭の中がぐちゃぐちゃになってしまいますので、今回は「国内編」ということにさせて頂きました。

それでは、お手許の[レジュメ（後掲）](#)に沿ってお話をさせていただきます。先ず、クルーズというものは航海（船）と停泊（寄港地）の組合せによって出来上がっている商

品だということで、先程、上り坂さんのお話にもありましたように、船上におけるサービスと寄港地におけるサービスの二つをもってクルーズ商品ということで我々は考えており、寄港地においてどうするかということも船会社として非常に大切なことであると思っています。

そして資料1と資料2に示しましたが、一体、国内のどれ位の港にクルーズ船が立ち寄っているのか？。「最近10ヵ年における日本籍クルーズ客船の本邦内港湾への寄港回数」という資料をご覧ください。実は私も神戸に来る新幹線の中で、改めてこの表を見直して大変驚いたことがあります。それは、港名では最初に室蘭港から始まり、最後の石垣港で終わっていますが、何と2万総トンを超えるようなクルーズ客船が寄港出来る港が日本国内に167港も存在しているということです。

私も詳しく調べたことはないのですが、恐らく世界中を探しても2万総トン以上のクルーズ客船が寄港出来る港をこんなに数多く持つ国は見当たらないのではないかと思います。今後、更に寄港地が増えて行くと思われまますので、日本は世界一高規格岸壁が整備された国であると断言してもいいのではないのでしょうか。阪神淡路大震災以降、多くの港が国内に整備されました。また、最近では海洋国家「日本」というものを更に売り出そうという国の方針もあるようで、そのようなこともこの数字の中でお分かりいただけたらと思います。今日は北海道から沖縄までの一つの港の説明は省かせて頂きますが、是非帰りながらも、また家に戻られてからでもこの表を見て頂いて、どれ位の港について自分が知っているのだろうかということ調べてみるのも大変有意義なことだと思います。

次に[資料2（後掲）](#)をご覧ください。

ここでは「飛鳥Ⅱ」が立ち寄った回数の多い順番で港を並べてみました。全体では、2年間で28港に合計228回寄港しています。中でも一番多いのが横浜港で、2年間に66回寄港しています。次が神戸港で22回、そして3番目が博多港の13回です。寄港回数の大半を横浜港と神戸港で占めています。いずれも大きな港町であるということが「飛鳥Ⅱ」の寄港実績からも分かります。入港回数の右側には日本籍クルーズ船の2006年と2007年の寄港回数の合計を示しています。1位は横浜港で239回、2位が神戸港で150回ですが、博多港は34回で第6位となり、「飛鳥Ⅱ」の寄港回数では第7位の名古屋港が第3位で62回となっています。この「飛鳥Ⅱ」の寄港回数と他の日本籍船の寄港回数を比べながら港を見るとまた、色々なことが分かってくるのではないかと思います。

そしてその隣に発着港という欄があります。

◎と○と△で表してありますが、次にお話ししようとしている内容の一つなのですが、船が港に入る目的は何かということで、お客さまが乗下船することが目的の港と観光をすることが目的という港に分けられます。「飛鳥Ⅱ」の今回のクルーズでは、神戸港を出て日向（細島港）へ行って、神戸港に帰って来た訳です。ですから、我々は、神戸は発着港として位置付けております。細島港は、お客さまが観光に行くということで、観光のための寄港地になります。そして今日神戸港に戻った訳ですが、神戸ではお客さまが皆さま下船されましたので神戸港も発着港となる訳です。表の中で◎の港は殆どが発着を目的にした港です。資料をご覧になってお分かりのように、1位から3位までの横浜、神戸、博多はお客さまが乗り降りするために船が寄港しているのです。そして4位の函館は無印になっていますが、これは殆どが観光を目的とした寄港であり、発着港ではありません。また、○印の7位の伏木富山港の場合は、大体、発着目的と観光目的が半々位で寄港しているということ。鹿児島や長崎、高知港など△印は約25%位が発着を目的として、75%位が観光を目的としている港を表しています。つまり、寄港地と申しましても発着と観光目的の二通りの港があるということで頭の中を整理して頂くと分かり易いかなと思います。一番右側の欄には各港の特色が書かれていますが、これを一つ一つお話ししていると非常に長くなりますので、本日は割愛させていただきます。

次に、クルーズ船の寄港目的についてお話し致します。

日本の場合は、船の運航形態として自主クルーズとチャータークルーズの2種類を織り混ぜながらクルーズビジネスを展開しております。「飛鳥Ⅱ」の場合は、約7割から8割位が船会社で企画して皆さまに販売をお願いしている自主クルーズで、他は「飛鳥Ⅱ」をまるまるお貸ししてチャーターが自分たちで行き先を決めて、それを販売するというチャータークルーズです。今日は自主クルーズで、かつ観光を目的とする寄港地についてのお話をさせていただきます。チャータークルーズの場合とは大きく異なりますし、先程お話しした発着地の港とも全然形態が違いますので、こんがらからないようにして下さい。

そこで、自主クルーズの場合に各寄港地でのサービスや船会社では今何をしているのか？ということについてお話し致します。船会社として提供する各種寄港地サービスには、オプションツアー、地元企画ツアー、貸切タクシープラン、レンタカープラン、フリープラン、シャトルバス運行、岸壁や船内での催事など様々なものが用意されます。岸壁や船内での催事には、入出港時の歓送迎セレモニーや観光案内デスクの設置、特産・物産展による販売、他には特産品の試食会・試飲会、船内で行われるローカルショーなど様々なことが寄港地で行われています。

以前はこんなに沢山の行事はありませんでしたが、近頃は、お客さまのニーズが多様化しており、船会社としてもそのニーズに合わせた様々な対応をすべきではないかということで、このように非常に細かいサービスが各々の寄港地で行われるようになりました。かつては、東京に行けば「はとバス」に乗って、都内の主要観光地をぐるっと一周しようというケースが多くありましたが、今はそういう画一的な観光がだんだん無くなってきて、それぞれが自分に合った寄港地での過ごし方を選択するようになっていきます。

そして様々な催事が行われているということで、[資料3（後掲）](#)に添付しております「飛鳥Ⅱ」の寄港受入概要（細島港）をご覧ください。これは寄港地の日向市が作成した資料ですから、船会社が自主的に作成してお客さまに提供したオプションツアー等は記載されておりませんので、それ以外の部分ということで参考にして下さい。

この資料には「入出港日時：2008年3月10日 08：00入港～17：00出港」と書いてありますが、この入出港時間については、クルーズ船の一般的なオペレーションパターンです。お客さまが朝食を済まされて街に出て行かれます。街の散策や観光をされて、全員が船に戻られると出港となり、17時30分頃から夕食が始まる訳です。

細島港では入港すると地元主催の約10分間の「入港歓迎セレモニー」が岸壁で行われました。日向市長が来られて乗客の皆さまに歓迎の挨拶をされまして、花束贈呈や記念品贈呈など一連の式典が終わった後に「日向ひよっこ踊り」という地元の郷土芸能を披露され、午後2時から1時間、岸壁で日向漁協による「地元獲れマグロの解体ショー」が行われました。乗客の皆さんにマグロ丼を振る舞うということで、非常に人気があって多くの乗客の方々がマグロの回りを取り囲んで、あっという間にマグロが無くなったと聞いております。また、10時から船が出港する間際の16時30分まで、舷側の岸壁では日向圏域の地場産品の展示即売会が開かれました。当初計画されていた20店舗のうち15店舗ほどが出展され、お土産を求める船客で賑わいました。

次にフリープランとして「漁業体験プラン」や「細島まち歩きプラン」「若山牧水なりきりプラン」などの多彩な市民交流イベントが用意されました。いずれも簡単に、手軽に出来るものを地元の方々と一緒に実施するプランで、例えば「塩辛体験」や「折り紙教室」だとか「海草を使ったちぎり絵教室」などで、こういう場を通じて地元の方々と船のお客さまが楽しく交流できる機会が生まれるのです。

これらは、船会社が用意する一般的な観光を目的としたオプションツアーではなくて、寄港地サイドで地元の良さを皆さんに知って頂きたいということで企画し運営されるプランで、事前にお客さまに対して船の上で紹介させて頂いております。地元が考えるイベントには、普段ですと中々参加出来ないような体験型のものが多く、船客には人気があります。

そして、シャトルバスの運行は船会社の寄港地でのサービスの一つですが、街中と本船の間を適宜運行して、お客さまにご利用頂いております。今回の細島港では5台を走らせました。「市民見学会」ですが、細島港で市の広報によって100名の市民の方々を公募して船内見学を実施しました。客船の場合は、受け入れてくれる市民の方々と一緒になって作り上げている訳ですから、「どうもありがとう」というお礼の気持ちも含めて地元の方に船内を見て頂いております。

船は17時の出港でしたから、16時45分から日向市主催の出港セレモニーが行われ、幼稚園児による太鼓の演奏が披露されました。これもすごく好評で、元気な幼稚園児が一生懸命に岸壁で見送ってくれる中を船が出ていく様は、非常に心温まる光景で、紙テープで別れを惜しむという船ならではの出港となりました。

その他に何が行われたかと申しますと、朝から夕方まで岸壁に地元の観光協会によるツアーデスク（観光インフォメーションコーナー）が設置されました。最近では単独で行動されるお客さまが多くいらっしゃいますので、そういう方々のために案内デスクが設置されました。また、丁度今頃は菜の花の盛りの時期で岸壁周辺に約5万本の菜の花を植えて頂いたの歓迎もありました。少し前まで寒かったために菜の花は満開には至らず二部咲き位だったのが非常に残念でした。

また、神戸から日向に向かう船内で寄港地の日向の紹介のために市の職員2名が乗船して、観光や物産についてのPRや寄港地での催しの説明が行われました。他には、観光パンフレットを各部屋に配付するとともに、船内放送システム（1チャンネル）を利用してお客さまがご自分の船室でご覧頂けるよう地元PR用のDVDを流し続けました。やはり一般の旅行とクルーズとでは、この辺りに大きな違いがあると思います。一般的な旅行ですと飛行機や車、鉄道等による移動になりますが、そういう場合は地元の人達と一体になって過ごすことが出来るという機会は殆どありません。ここにクルーズならではの大きな特色がありますので、私たちも寄港地の関係者と船会社が一緒になって色々なアイデアを出しながら、お客さまにとって「満足度の高い寄港地」を作っていこうということで取り組んでおります。

次のテーマに移りますが、**寄港地（自主クルーズ）におけるお客さまの行動パターン**について、お話し致します。

今、船会社では色々なメニューを取り揃えてお客さまの満足度を上げる工夫をしています。寄港地でお客さまがどういう行動パターンをとられるのかを調べました。その結果、最近の傾向として船社主催のオプションツアーへの参加率が年々低下してきております。国内クルーズにおける平均的なツアー参加率は昼食付ツアーで15%、半日ツアーで25%となっています。従って、半分以上のお客さまがツアーには参加せずに自分なりに寄港地での過ごし方を探して行動されているということがお分かりいただけます。このような傾向になっていますので、船会社が単に寄港地でオプションツアーを作って販売しているだけではお客さまの満足度には適わないのだろうということです。日向寄港を例に挙げましたが、寄港地で様々な催しを地元の方々のご協力を得ながら船会社とともに様々なイベントを展開しております。

因みに、今回、細島港に寄港したときのオプションツアーへの参加率がどの位だったのかを申し上げますと、「飛鳥II」の乗船客総数が660名で、高千穂への昼食付1日観光に参加された方

が120名で18%、バスを使って日向市内の見所を2時間半で回る半日ツアーに参加された方が160名で24%でした。今回も全国平均とそんなに変わらない行動パターンでした。細島港寄港での特色は、船会社として提供する各種サービスの中に「貸切タクシープラン」というのがあって、事前にお客さまから貸切タクシーの利用についてのご依頼を受けて私どもの方で手配するというサービスですが、年々これは増えています。細島では53台の「貸切タクシープラン」のご要望があって、146名の方がタクシーで市内を散策されました。非常に多くの方が個人的にタクシーで市内観光をされていることが数字の上に表れています。

そして、最近健康に対する関心が高まっており、乗船されているお客さまにはお年を召された方が多いですから、シャトルバスで街へ出て1時間程度ぶらぶらと散策して、またシャトルバスで船へ帰って来るという行動パターンが非常に増えています。我々の用意したプランに乗るといよりも、お客さま自身が自分たちで自らに合った寄港地での過ごし方や楽しみ方を求めていることがよく分かります。

従来は、お客さまへの**寄港地情報**については、船会社はお客さまが乗船された後に提供していましたが、それでは遅いということになります。これだけニーズが多様化して、それぞれが自分に合ったものを探し始めてくると、そういうお客さまにはそれぞれに異なるプランをご用意しなければいけません。様々なお客さまのニーズに応えるためには、クルーズを販売される皆さま方のところにお客さまが訪ねられた時に、寄港地の情報提供をして頂くということが非常に重要なタイミングになると考えます。C.C（クルーズ・コンサルタント）の配置が進んでいる旅行会社の各店舗でも「クルーズはいいよ！」という話はたくさん出来るようになり、色々な船の話も出来るようになってきているのですが、寄港地の話になると上手く説明が出来ないという場合が多いのではないのでしょうか。クルーズの場合はリピーターが多いので、寄港地のセレモニーやイベントについては、船会社に聞いて頂いたり、直接地元の観光協会や各港の振興協会に聞いて頂いたり、ホームページでお調べ頂いて、皆さま方のお店に訪れたお客さまにその辺りの情報提供も合わせてしていただければリピートされる可能性も高まってくるのではないのでしょうか。

是非、寄港地における過ごし方についての情報を皆さんの方でも積極的に集め頂ければと思いますが、そのような時にどういう寄港地情報をお客さまに提供すればいいのかということですが、大切な所を幾つか書いておきます。それは「事前に押さえておきたいクルーズならではの寄港地情報」というところにまとめてあります。

まずは**岸壁情報**です。

実は中々情報を得るのが難しいのですが、私共の営業にうるさく言って情報を集めて下さい。船の場合は、港のどこに着くのかをちゃんと押さえておかないとそこから先の行動が全く変わってしまいます。船は岸壁に係留するのか、錨地からボートで上陸するのか。単に寄港地と言っても岸壁がなくて、沖合に錨を下ろして船のボートに60名ずつ乗って上陸する場合がありますから、まず寄港地を見た時に考えてみてください。岸壁や上陸地点が一体何処にあるのか。一度寄港したところではまた同じような場所に行きますから、それを是非知って頂きたいと思います。例えば、神戸港といっても非常に広くて、一番西の端と東の方では随分離れています。神戸港の何処に着いたかによって、その後の行動パターンが変わってしまいます。

それから、岸壁や上陸地点の周辺環境はどうかということも思い浮かべてみて下さい。特に寄港地の場合は、居ながらにしてリゾートというような場所に着く場合もありますし、港によっては客船バースがなくて石炭や材木を扱うかなり薄汚れた岸壁に着く場合もあります。これは大違いです。青い海や島が見える綺麗な風景の中に船がいる場合と石炭や材木に船が囲まれている場合とでは過ごし方が全然違います。先程もお話しましたように、船から出ていくお客さまの数が減ってきて、在船される方が多いという状況が出て来ていますので、どういう環境に船が着いているかということはクルーズでは非常に重要な要素です。そして、市街地までの距離と時間

や交通手段について、もちろん船会社がお客さまに情報提供致しますが、皆さまの方でもお客さまに販売する際に何処かにメモっておくときっと役立つと思います。あとは船が停泊している所から1時間または1時間30分圏内に何があるのか、その圏内の観光地を押さえておかないとお客さまに説明しても的を射ないこととなります。船の場合には1時間30分までが可能な行動範囲だと思って頂ければ結構です。

次に**入出港時間**です。

寄港地を知った際には入出港時間も覚えておいて下さい。先程申しましたように原則的には朝8時の入港で夕方5時の出港ですが、これとは違う時間帯での入出港が計画されている場合に、一体その意図は何なのだろうかということをお考え下さい。分からなければ船会社にお尋ね下さい。以前、松山港に午前6時入港、正午に出港というケースがありました。我々が意図したところは、朝早くに道後温泉の本館に行って頂いてお湯が綺麗な時間に温泉を楽しんで頂き、昼間の明るい時間帯で多島海が美しい瀬戸内海を航行して、瀬戸大橋などもご覧頂こうと計画した訳です。お客さまに通常の松山観光のお話をされても的外れになってしまいますので、入出港時間というのも心に止めておいて頂きたいと思います。

最後になりますが、**船会社による寄港地サービス**です。

先程来いろいろなお話をさせて頂きましたが、この寄港地サービスというものがどういうものかを事前に押さえて頂くと有り難いのですが、中々最後まで決まらなかったりして難しい面もありますが、そのようなことも含めて頭の中に入れて、「クルーズに乗りたいんだけど・・・」というお客さまが来られた時に「実はこの港ではこういうことが・・・」という話が出来れば、クルーズ船の寄港地の特色を十分に伝えことが出来るのではないのでしょうか。

まだまだ、色々と寄港地に関するお話は沢山あるのですが、与えられた時間は11時10分までということですから、この辺りでお話を終えたいと思います。

本日はご静聴ありがとうございました。

終了

資料1

寄港地情報を活かして販売上手になろう！（国内編）

—お客さまは自分に合った寄港地の楽しみ方を求めている—

- クルーズ＝航海（船）と停泊（寄港地）との組合せ商品
- クルーズ船の寄港地と寄港回数
 - ・邦船の寄港数
 - ・飛鳥Ⅱの寄港数
- クルーズ船の寄港目的
 - ・自主クルーズ／チャータークルーズ
 - ・発着地／寄港地
- 船会社として提供する各種寄港地サービス
 - ・オプションツアー
 - ・地元企画ツアー
 - ・貸切タクシープラン
 - ・レンタカープラン
 - ・フリープラン
 - ・シャトルバス運行
 - ・岸壁や船内での催事（入出港時の歓送迎セレモニー／観光案内デスク／特産・物産店／特産品の試食・試飲会／船内ローカルショー）
- 寄港地（自主クルーズ）におけるお客さまの行動パターン
 - ・船会社主催のオプションツアー参加率の低下（平均的ツアー参加率＝昼食付ツアー15%、半日ツアー25%）
 - ・シャトルバス利用や健康を兼ねた徒歩観光人口の増加
 - ・自分に合った寄港地での楽しみ方・過ごし方
- お客さまへの寄港地情報提供
 - ・船会社からの寄港地情報は船内で観光パンフレットなど一般的情報を提供するところとなるが、お客さまは乗船前に自分に合った寄港地での過ごし方を考えている。⇒お客さまと直接接する皆さまの出番です。
- 事前に押さえておきたいクルーズならではの寄港地情報
 - ・岸壁情報（船は岸壁に係留するのか/錨地からボートで上陸するのか/岸壁若しくは上陸地点はどこか/岸壁・上陸地点周辺の環境はどうか/市街地までの距離と時間及び交通手段/1時間圏内・2時間圏内に何かがあるのか）
 - ・入出港時間（入出港時間決定に際する船会社の意図/入出港時間に応じた行動範囲とお勧めメニュー）
 - ・船会社による寄港地サービスの内容（入出港時の歓送迎イベント、停泊中の岸壁イベント）
 - ・シャトルバス乗降場所

以上

資料 2

飛鳥Ⅱ：2006+2007年の寄港実績

順位	港名	飛鳥Ⅱ	順位	日本籍船寄港	発着港	特 色
1	横浜	66	1	239	◎	船籍港、港の賑わい
2	神戸	22	2	150	◎	中突堤
3	博多	13	6	34	◎	チャータークルーズでの寄港
4	函館	10	10	18		北海道クルーズの玄関口
5	長崎	9	9	21	△	グラバー庭園が徒歩圏内
6	青森	8	15	14		物産館が徒歩圏内
7	名古屋	7	3	62	◎	ガーデンふ頭
7	釧路	7	12	17		東北海道の玄関口
7	鹿児島	7	12	17	△	錦江湾と桜島、客船専用埠頭
7	高知	7	19	12	△	停泊中の船内・岸壁ふるさとコーナー
7	伏木	7		9	○	豊富なオプションツアー
12	金沢	6	17	13	○	歴史と文化、乗換えが便利
13	小樽	5	11	18		小樽運河が徒歩圏内
13	清水	5	17	13	△	富士山、寿司屋横丁
13	別府	5	21	10		温泉
16	広島	4	8	25	○	チャータークルーズでの寄港
16	新宮	4	14	15		2泊3日クルーズ、熊野古道
16	秋田船川	4	21	10		なまはげ、竿灯
16	名瀬	4	21	10		出港時の島歌歓送が好評
16	酒田	4		5	◎	チャータークルーズでの寄港
16	新潟	4		8	◎	チャータークルーズでの寄港
16	境港	4		6	◎	チャータークルーズでの寄港
23	東京	3	4	50	○	寄港が減少
23	大阪	3	7	28	◎	寄港が減少
23	室蘭	3		3	○	客船埠頭、登別温泉
23	那覇	3		7		南西諸島クルーズ
27	網走	2	21	10		知床、阿寒のゲートウェイ
27	杓形	2	21	10		利尻の夕日
	宮之浦	0	5	42		飛鳥Ⅱ：寄港不可
	宇野	0	15	14		飛鳥Ⅱ：寄港不可
	島間	0	19	12		飛鳥Ⅱ：寄港不可

資料3

「飛鳥Ⅱ」寄港受入概要(細島港)

■クルーズ名：早春の宮崎日向・瀬戸内海クルーズ

■入出港日時：平成20年3月10日 08:00入港～17:00出港

(入港歓迎セレモニー)

開始予定：08:05 (08:15終了予定)

内 容：開 会：司会

歓迎挨拶：市長

花束贈呈：船長、機関長、ホテルマネージャー/日向ひまわりレディほか

記念品贈呈：船長、機関長、ホテルマネージャー/市長、議長、観光協会会長

返礼品贈呈：船長/市長

船長挨拶：

閉 式：

*セレモニー終了後、地元の郷土芸能「日向ひょっこ踊り」の披露を行います。

(岸壁催物)

○マグロの解体ショー

地元日向市漁協による地元獲れマグロの解体ショーを行います。又、ショー終了後は乗客の皆さんにマグロ丼を振舞わせて貰います。

開始予定：14:00～(15:00終了予定)

○地場産品展示即売会

日向圏域(日向市・門川町・美郷町・諸塚村・椎葉村)の地場産品を展示即売会を行います。会場に海の幸から山の幸まで取り揃えることが出来ます。又、地元蔵元による焼酎の展示即売会を行います。

開始予定：10:00～(16:30終了予定)

出店数：20店を予定

主点品目：地鶏の炭火焼、鮎の塩焼き、宮崎茶、銘菓、青果物、海産物、焼酎、日向はまぐり基石等

(フリープラン)

早春の日向の観光、自然、物産等に親しんで頂けるようアクティブな体験プランを設定しました。又、市民との触れあいの場をふんだんに取り入れたプランを設定しています。

○漁業体験プラン

内 容：日向市漁協の協力により、漁船に乗り、定置網漁の見学を行います。漁業終了後には、漁船に乗り日豊海岸国定公園内の名勝「馬ヶ背」等を遊覧見学します。

所要時間：約4時間(09:00～13:00)

受入人数：20名(小型バス定員)

参加費：5,000円

*漁業体験、遊覧見学終了後、日向市漁協内で地元の郷土料理教室、試食会を開催します。

○細島まち歩きプラン

内 容：細島港周辺にある歴史・文化施設の散策を行います。散策後、漁業体験ツアーの参加者と一緒に日向市漁協で地元の郷土料理教室、試食会を開催します

所要時間：3 時間（10：00～13：00）

受入人数：20 人（小型バス定員）

参加費：3,500 円

○若山牧水なりきりプラン

内 容：宮崎県が誇る郷土の歌人「若山牧水」のふるさとを訪ねるツアー。実際に牧水の旅姿に変身したり、短歌を作ってみたり、牧水になりきるツアーです。

所要時間：6 時間（09：00～15：00）

受入人数：20 人（小型バス定員）

参加費：5,000 円

(シャトルバス)

運行方法：郵船クルーズが運行

行 先：本船～美々津地区 バス台数 5 台

運行形態：定時運行（時刻表を作成。船内で配布）

(市民見学会)

募集方法：市の公報による募集を行います。

実施時間：10：45 受付開始

11：00 船内見学（100 名、本船乗組員アテンド）～12：00（約 1 時間）

(出港セレモニー)

開始予定：16：15（17：00 終了予定）

内 容：開 会：司会

出 港 挨拶：日向市観光協会会長

マ ーチング：幼稚園児による太鼓の披露

*セレモニー終了後、紙テープによる見送りを行います。紙テープは、本船で準備します。

(その他)

○ツアーデスクの設置

単独で行動されるお客さまのために観光協会による観光ツアーデスクを設置します。

(08：30～16：30 岸壁)

○菜の花による歓迎

乗客の皆さまを迎え入れるために、貴船が接岸する岸壁周辺に 5 万本の菜の花を植えました。3 月には貴船から満開の菜の花が見える予定です。

○職員の派遣について

寄港地紹介のために、日向市職員 2 名（観光・物産担当者）を派遣します。

○観光パンフレット等の提供について

寄港頂いた乗客の皆さま用に観光用パンフレット 500 部（2 種類）を提供させていただきます。

又、船内放送用地元 PR の DVD を準備します。

以上